

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1214 号	氏 名	加 藤 太 門
論文審査担当者	主 査 柴 祐 司 副 査 駒 津 光 久 ・ 増 木 静 江		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>本邦では透析患者増加しており、年間約 30000 例の患者に透析が新規導入されている。一般的に透析患者は予後が不良で、合併疾患が多いことが知られており、心血管死や末梢動脈疾患の合併が多い。一方でフレイルは近年種々の疾患の予後と関連があることが報告されており、慢性腎不全患者や透析患者の予後にも影響することが報告されている。今回糖尿病性腎症を背景とする血液透析患者の重症下肢虚血回避生存と歩行状態（歩行可能もしくは歩行不可能）の関連について検討した。</p> <p>本研究は多施設共同、前向き観察研究で 2012 年の 4 月から 2013 年の 8 月までに松本市と安曇野市の 10 施設の透析センターから糖尿病性腎症による血液透析患者を登録し、6 か月毎に臨床症状、歩行状態、Ankle-Brachial index (ABI)、血管内超音波検査を検査し 2 年間の重症下肢回避生存、生存と主要下肢イベント（全死亡、大切断、下肢血行再建）を評価した PREDICT study のサブ解析として、登録患者は 173 中 164 例を評価、解析した。</p> <p>その結果、次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 重症下肢虚血回避生存の患者は重症下肢虚血もしくは死亡した患者より若く、歩行可能な患者が多かった。2. 歩行可能患者の重症下肢回避生存率は歩行不可能患者よりも有意に高かった。3. 歩行可能患者の生存率と主要下肢イベント回避率は歩行不可能患者よりも有意に高かった。4. 歩行可能状態は、重症下肢回避生存の独立した予測因子であった。 <p>これらの結果より、糖尿病性腎症による透析患者の歩行状態は重症下肢回避生存と関連があると結論付けた。フレイルの評価についていくつかの報告があるが、歩行状態は評価が容易で医師間、多職種間でも共有しやすい評価項目であり大変有用な評価項目である。また歩行不可能患者は生命予後が悪いだけでなく、重症下肢虚血のリスクも高いため、より早期に介入する必要がある可能性がある。</p> <p>主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			